

メッセージ伝播に関する補足

- 講義資料は、09BayesianNetworks.pdf ではなく 09BayesianNetworks-rev.pdf を参照してください。
- 課題は簡単すぎて、かえって、分かりにくいかもしれません。
- 定義に従うより、本資料中の「ファクター木：分離」以下3枚のスライド(別途用意)のように、変形していく方が分かりやすいと思います。

確率伝播/メッセージ伝播

確率推論

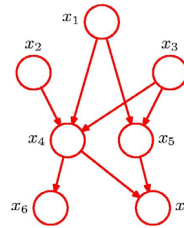
ランダム変数 X_1, \dots, X_N のうち X_{m+1}, \dots, X_N の観測値 a_{m+1}, \dots, a_N が与えられたとき、非観測値の周辺事後確率 $\Pr(X_i = a | X_{m+1} = a_{m+1}, \dots, X_N = a_N), i = 1, \dots, m$ を計算すること

これを直接用いて、例えば $\Pr(X_1 = a)$ を求めようとすると

$$\Pr(X_i = a | X_{m+1} = a_{m+1}, \dots, X_N = a_N) = \sum_{x_2, \dots, x_m} p(a, x_2, \dots, x_m, a_{m+1}, \dots, a_N)$$

となるが、各 X_i が q 通りの値を取りうる場合およそ q^{m-1} 回の演算が必要となる

有向グラフ



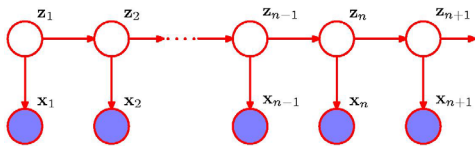
$$p(x_1, \dots, x_7) = p(x_1)p(x_2)p(x_3)p(x_4|x_1, x_2, x_3)p(x_5|x_1, x_3)p(x_6|x_4)p(x_7|x_4, x_5)$$

一般には

$$p(\mathbf{x}) = \prod_{k=1}^K p(x_k | \text{pa}_k)$$

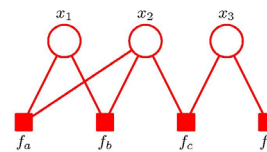
(C. Bishop 2009)

例: 時系列のモデリング



(C. Bishop 2009)

ファクターグラフ

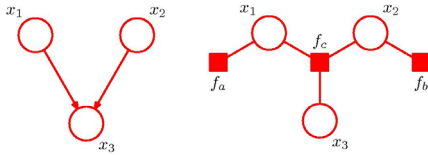


$$p(\mathbf{x}) = \prod_s f_s(\mathbf{x}_s)$$

(C. Bishop 2009)

有向グラフからファクターグラフへ

$$p(x_1, x_2, x_3) = p(x_1)p(x_2)p(x_3|x_1, x_2)$$



$$\begin{aligned} f_a(x_1) &= p(x_1) \\ f_b(x_2) &= p(x_2) \\ f_c(x_1, x_2, x_3) &= p(x_3|x_1, x_2) \end{aligned}$$

(C. Bishop 2009)

Sum-Product アルゴリズム (1)

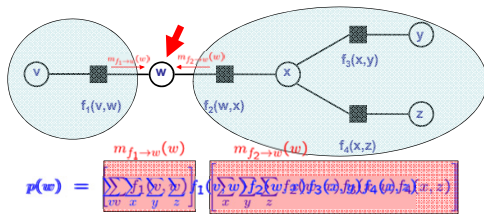
目的:

1. 周辺分布を見出す、効率的かつ (ある場合には) 正確な推論アルゴリズムを得る
2. 複数の周辺分布を求める時には、計算過程に共通部分があるようにし、その効率化を図れる。

アイデア: 分配側 (ファクターへの分解)

$$ab + ac = a(b + c)$$

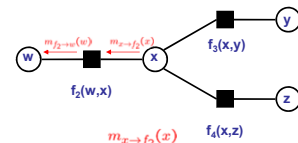
ファクター木: 分離



$$p(w) = \sum_{v,x,y,z} f_1(v,w) f_2(w,x) f_3(x,y) f_4(x,z)$$

(C. Bishop 2009)

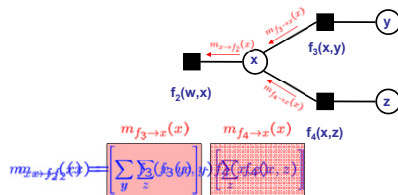
メッセージ: ファクターから変数へ



$$m_{f_2 \to w}(w) = \sum_x \sum_y \sum_z f_2(w,x) f_3(x,y) f_4(x,z)$$

(C. Bishop 2009)

メッセージ: 変数からファクターへ

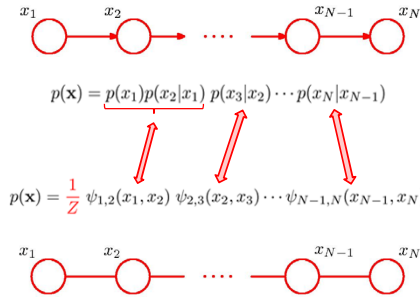


$$m_{x \to f_2(x)} = \sum_y \sum_z f_3(x,y) f_4(x,z)$$

(C. Bishop 2009)

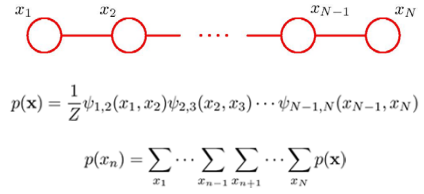
もう少し詳しく

有向グラフから無向グラフへ



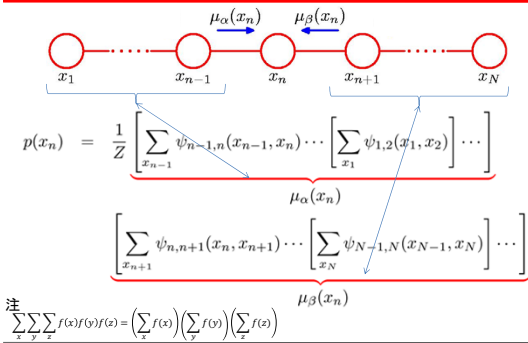
(C. Bishop PRML)

チェーン上の推論 (1)



(C. Bishop PRML)

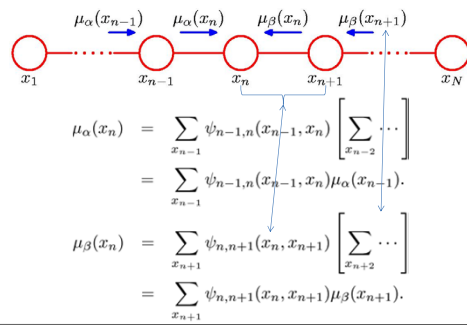
チェーン上の推論 (2)



注 $\sum_x \sum_y f(x)g(y)f(x) = \left(\sum_x f(x)\right)\left(\sum_y g(y)\right)\left(\sum_x f(x)\right)$

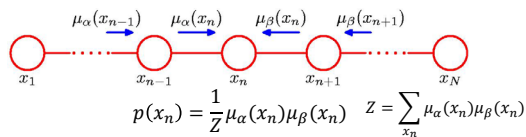
(C. Bishop PRML)

チェーン上の推論 (3)



(C. Bishop PRML)

チェーン上の推論 (4)



$$\mu_\alpha(x_n) = \sum_{x_{n-1}} \psi_{n-2,n-1}(x_{n-1}, x_n) \mu_\alpha(x_{n-1}) \quad \mu_\beta(x_n) = \sum_{x_{n+1}} \psi_{n,n+1}(x_n, x_{n+1}) \mu_\beta(x_{n+1})$$

$$\mu_\alpha(x_{n-1}) = \sum_{x_{n-2}} \psi_{n-2,n-1}(x_{n-2}, x_{n-1}) \mu_\alpha(x_{n-2}) \quad \mu_\beta(x_{n+1}) = \sum_{x_{n+2}} \psi_{n+1,n+2}(x_{n+1}, x_{n+2}) \mu_\beta(x_{n+2})$$

$$\mu_\alpha(x_2) = \sum_{x_1} \psi_{1,2}(x_1, x_2) \quad \mu_\beta(x_{N-1}) = \sum_{x_N} \psi_{N-1,N}(x_{N-1}, x_N)$$

(C. Bishop PRML)

チェーン上の推論 (5)

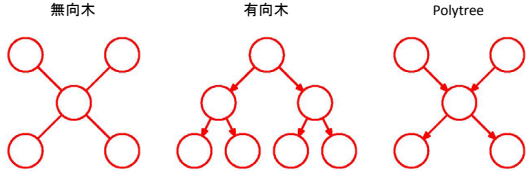
(局所的に) 周辺分布を求めるには:

- 前進メッセージをすべて求め記憶する $\mu_\alpha(x_n)$
- 後退メッセージをすべて求め記憶する $\mu_\beta(x_n)$
- 各ノード x_m で規格化定数 Z を求める
- 必要なすべての変数につき、次を求める

$$p(x_n) = \frac{1}{Z} \mu_\alpha(x_n) \mu_\beta(x_n)$$

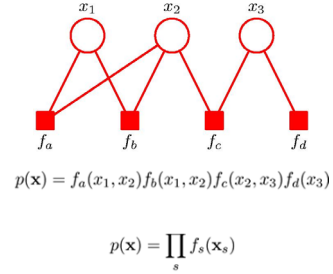
(C. Bishop PRML)

木



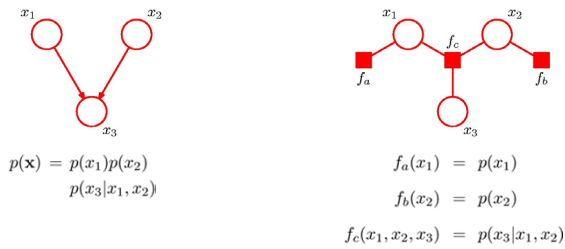
(C. Bishop PRML)

ファクターグラフ

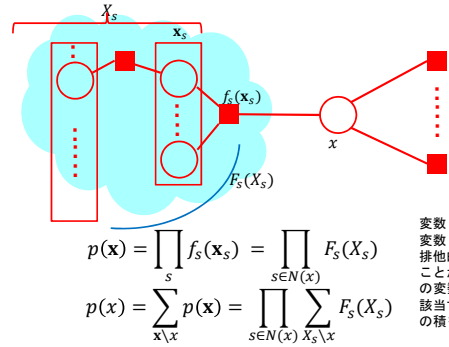


(C. Bishop PRML)

有向グラフからファクターグラフへ

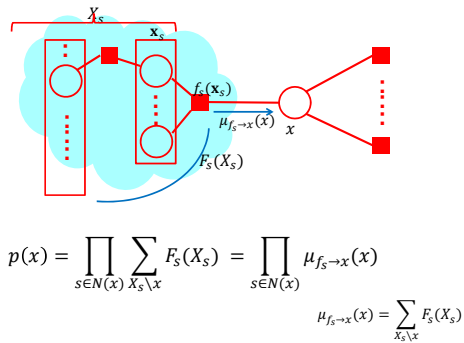


Sum-Product アルゴリズム (2)

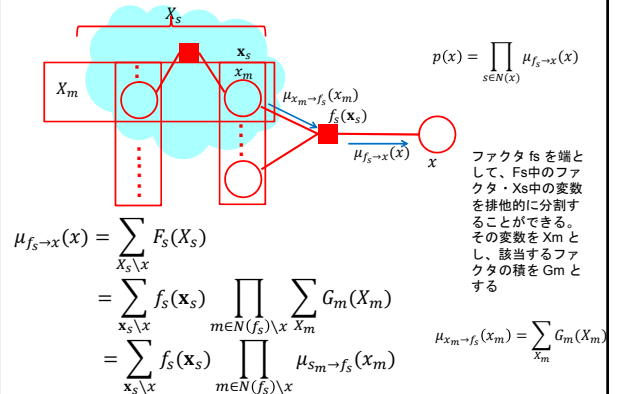


変数 x を端として、変数・ファクタを排他的に分割することができる。その変数を X_s とし、該当するファクタの積を F_s とする

Sum-Product アルゴリズム (3)



Sum-Product アルゴリズム (4)



ファクタ f_s を端として、 F_s 中のファクタ・ X_s 中の変数を排他的に分割することができる。その変数を X_m とし、該当するファクタの積を G_m とする

Sum-Product アルゴリズム (5)

初期化

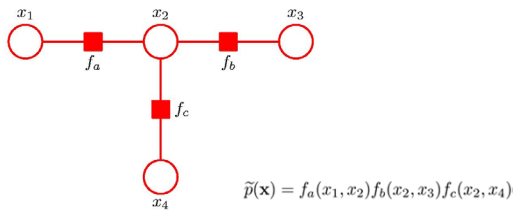


Sum-Product アルゴリズム (6)

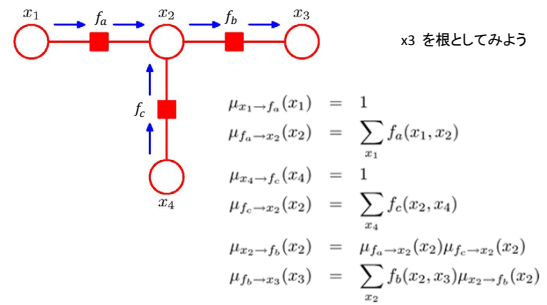
(局所的な)周辺分布を計算するには:

- 任意の変数を根とする木を考える
- 葉から根へとメッセージを計算し伝播させる. その過程で各ノードでメッセージを記憶する.
- 根から葉へとメッセージを計算し伝播させる. その過程で各ノードでメッセージを記憶する.
- 周辺分布を求めたいノード毎、メッセージの積を計算する。必要なら規格化(正規化)する。

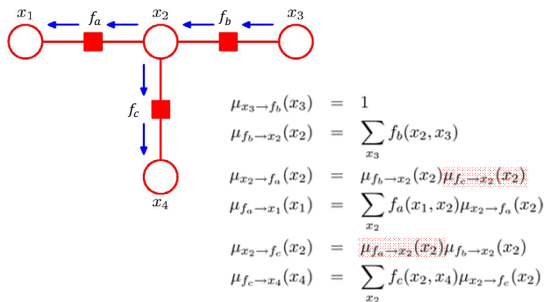
例 (1)



例 (2)



例 (3)



例 (4)

